

書作品の創作・揮毫

一、創作に当たっての考慮点：

- ① 文字の選択（行書、草書等）、辞典でくずし方に間違いが無いように調べる。
- ② 用紙への配置、字の大小、文字の繋がり
- ③ 墨の濃淡を決める。滲み、普通、かすれを入れる。墨つぎを何処で
- ④ 落款（署名）をどのように入れるか。

二、釈文：

- (1) 再会期何日 臨江思邈哉 徒道不相忘 君心曷得回
再会何れの日をか期せん／江に臨んで思い邈（はる）かなる哉／徒に道（い）う相
忘れずと／君が心曷（なん）ぞ回らすを得ん／ 夏目漱石の古別離の一部
- (2) 養神和気 精神を養うのには先ずその気持を和らげることから始る。
- (3) 一夜天風吹我去／白雲皎月遇詩神 正岡子規の次瑤韻の一部
ある夜のこと天の風が私を運び、白く輝く雲と月明りの中で詩の神に出会わせてく
れた。 皎月＝皓月＝明月
- (4) 動くとも見えず船往く春の海（動くとも 見え須船ゆ具 春の海）
68期 福島有恒さんの句

(メモ)

